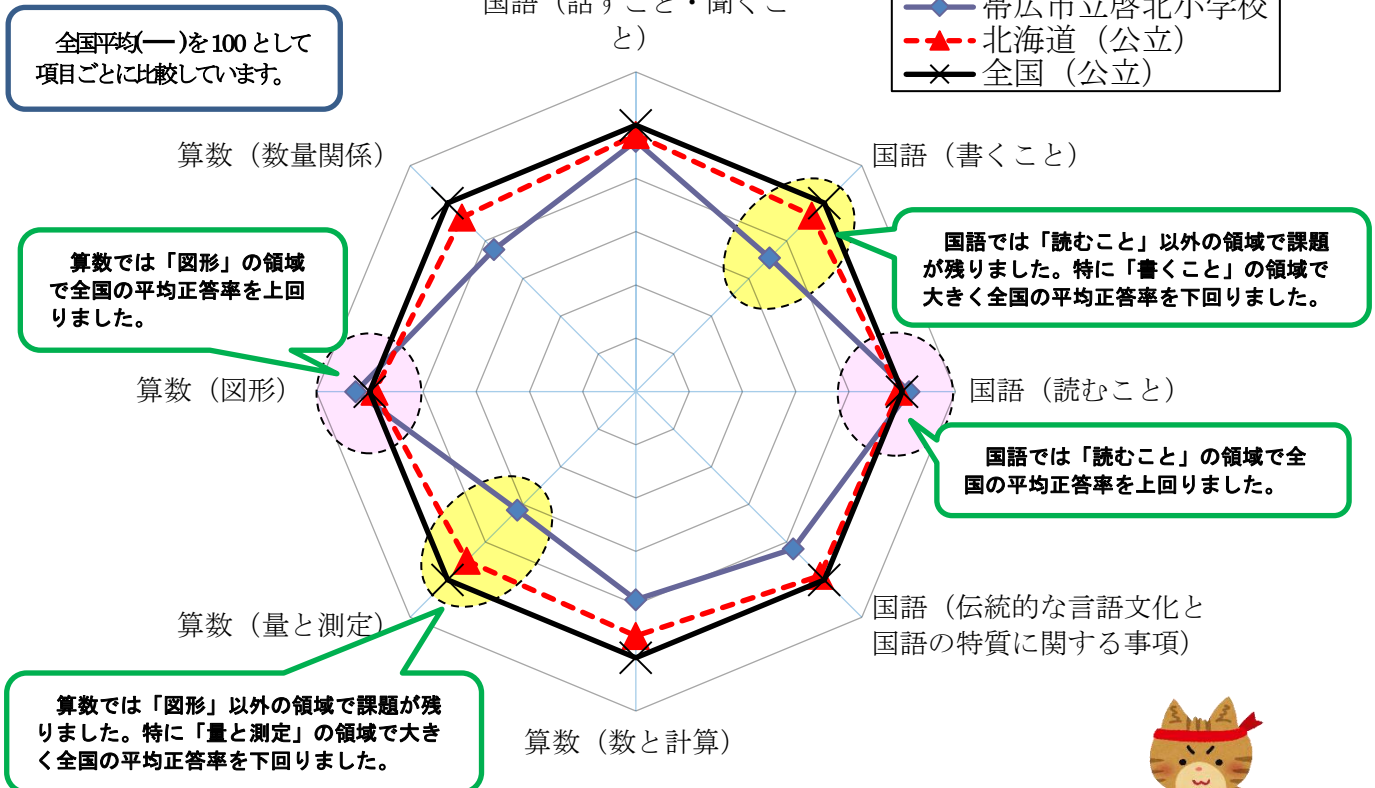


# 令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果を受けて

帯広市立啓北小学校

## 調査結果からみた、本校児童の様子

### 学力について



#### 国語

- 「読むこと」の領域で全国の平均正答率を上回った。
- 「公衆電話について調べたことを、【報告する文章】の中の実践部イを、漢字を使って書き直す(友達にかぎらず)」の設問では、全国の平均正答率を大きく上回った。
- 「公衆電話について調べたことを、【報告する文章】の中の実践部アを、漢字を使って書き直す(調査のたいしょう)」の設問では、全国の平均正答率を大きく下回った。
- 「公衆電話について調べたことを【報告する文章】の『(2)公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか』における書き方の工夫と適切なものを選択する」の設問では、全国の平均正答率を大きく下回った。

#### 算数

- 「図形」の領域で全国の平均正答率を上回った。
- 「長方形を直線で切った図形の中から、台形を選ぶ」設問で、全国の平均正答率を上回った。
- 「洗顔と歯磨きで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する」設問では、全国の平均正答率を大きく下回った。
- 「残り7ポール分進むのにかかる時間の求め方と答えを記述し、24分間以内にレジに着くことが出来るかどうかを判断する」設問では、全国の平均正答率を大きく下回った。
- 「2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の約何倍かを、棒グラフから読み取って書く」設問では、全国の平均正答率を大きく下回った。

・無回答率は、14問中2問のみ全国が無回答率を超えてしまったが、全体的には無回答が少なく、何とか答えを導きだそうと意欲的に取り組んだと言える。ただ、漢字の正答率は全体的に低く、「調査のたいしょう」では、「1字違う」というより、全く違う漢字を書いた間違いが多かった。

・「数と計算」「量と測定」「数量関係」の領域は、全国平均を下回っていた。特に今回は四則計算や単位量当たりの大きさに関する問題があまりできていなかった。

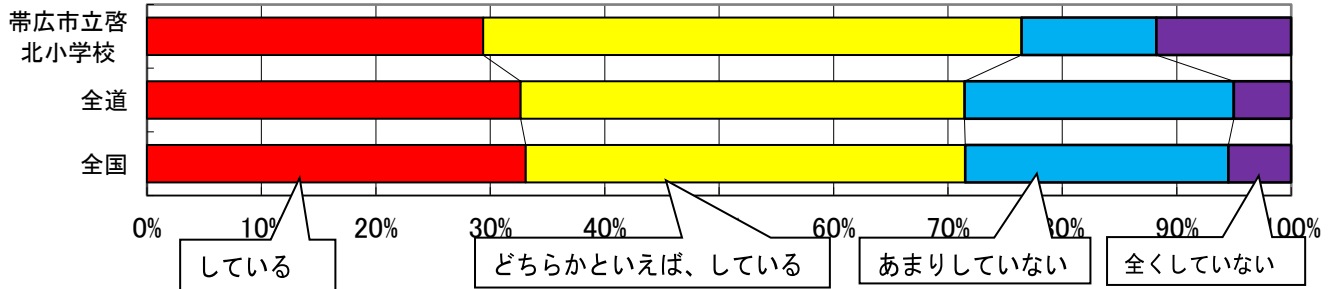
・国語より算数のほうが、正答できたはずの問題を間違えていると思われる児童が多く、もう一度見直したり、考え直したりする習慣をつけることが必要。

## 学習状況について(児童質問紙より)

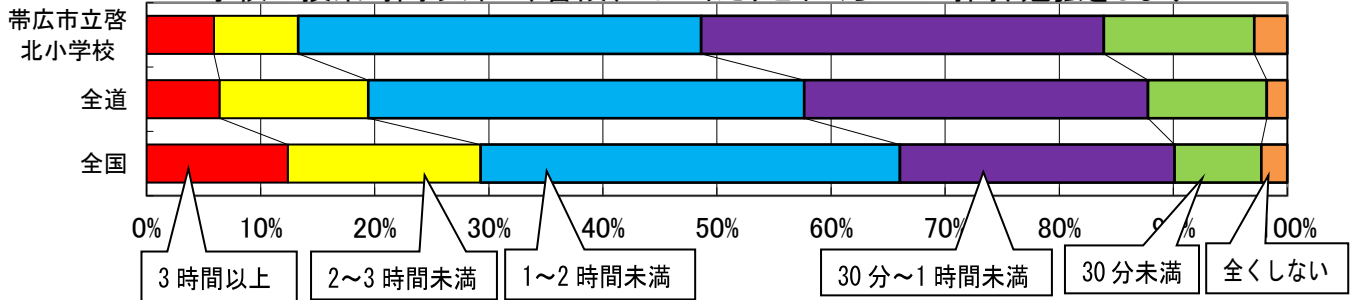


- 授業で学んだことを、他の学習に生かしている児童が多い。
- 読書が好きという児童が多い。
- ▲自分で計画を立てて勉強している児童がどちらかと言えばしている児童も含めると多いと言えるが、「全くしていない」という児童が多い。
- ▲普段の家庭での学習時間が短い。

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか



学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



学校では... **そこで** ... 家庭では...



### ①基礎・基本の確実な定着

- ・はばたきタイム(朝学習), チャレンジテストの活用
- ・漢字や計算の反復練習

### ②分かりやすい授業づくり

- ・1時間の課題とまとめが明確な授業
- ・TTや少人数指導など複数の教師による個に応じた指導

### ③学習規律・学習習慣の定着

- ・全学級統一の「学習のきまり」を設定し、返事の仕方や話の聞き方を継続指導
- ・宿題の提示や、家庭学習への取組奨励と評価(児童への励まし)

### ①机に向かう時間の確保

- ・目標は「10分間×学年+10分間」
- ・時間帯を決めて毎日継続(定着するまでは、保護者からの声掛けを)

### ②テレビ・ゲームやネット利用の時間を決める

- ・自分の生活を振り返り、視聴時間を再確認(「生活リズムチェックシート」の活用)
- ・テレビ、ゲームやネット利用の時間を減らし、家庭学習や読書の時間に(ストップ・ザ・見放題、家読)

### ③心がふれあう時間の確保

- ・将来を思い描き、学習の意義を感じながら意欲をもって学習に取り組む姿勢の育成
- ・子供の頑張りやよい所を認め、称賛

学校と家庭が連携し、学力向上を目指しましょう!